世界も社会も自分事

一般社団法人グローバル多文化社会研究所

賛助会員を募集しています。ぜひ HP をご覧ください。 https://www.gmsresearch.net/

GMS ニュースレター第１号　2022 年 11 月号 No.1

研究所を設立しました！

2022 年 4 月 1 日、東京都文京区に長年、多文化理解、多文化化、教育や社会の国際化、グローバル化に関わる研究や実践で連携してきたメンバーが集まり、

一般社団法人　グローバル多文化社会研究所
(Global and Multicultural Society Research Institute)

を設立いたしました。

スターティング・メンバーは、所長の前職（東京大学）から現在（文京学院大学）にまたがってグローバル多文化社会の推進に継続して連携してきたメンバーが中心です。

まだ始まったばかりですが、現在、「世界と日本社会」「グローバルとローカル」とを結び、多文化共存を「自分事」にできる次世代の育成に向けて、プロジェクトを推進しております。その中から、二つのプロジェクトを紹介します。

1）日本式の教育モデルの一つ、Tokkatsu を通して国際貢献をすると同時に、「世界も社会も自分事化」する
2）社会の中のエスニック・コミュニティを「見える化」「聞こえる化」することによって、多文化共存を「自分事化」すると同時に、エスニック・コミュニティのエンパワーメントを後押しする

１）「ひと全体」を教育対象とする Tokkatsu モデルで国際貢献

世界に見直されつつある「ひと全て」を育てるホーリスティック(holistic)教育

「知」だけでなく、社会性や心の育成、健康な体を包括的に育てようとする
「ひと全体」を育てる教育＝
「ホーリスティック」(holistic)な教育
が今日見直されています。
コロナ禍、各国で臨時休校になったこともあり、学校が単に狭義の「学力」を育てるところではなく

一般社団法人　グローバル多文化社会研究所
＜住所＞〒113-8668 東京都文京区向丘 1-19-1 文京学院大学　恒吉僚子研究室内
Homepage: https://www.gmsresearch.net　E-mail: office[at]gmsresearch.org　Tel : 03-5684-4529

「ひと全体」を育てるところなのだという主張は国際的にもされるようになっております。

その中でも、欧米の教育モデルが重視してきた認知的な学習に加え、

「非認知的スキル」(noncognitive skills)

を育成する必要性が唱えられています。非認知的な領域での教育を推進する**欧米のモデル**としては**社会情動的な学習**(social and emotional learning, SEL)がよく知られています。今日、ユネスコ、OECD 等の国際機関、各国の教育改革においても、社会情動的なスキル向上を主張する声が多く聞かれるようになっております。最も社会的に弱い立場にある子ども達にとって学校が非認知的な育成機会を提供することが特に大事だと主張されたりもしております。

日本の教育経験が結びつく 国際貢献・国際親善

前述のように、国際的に社会性や非認知的スキル、狭い意味での「勉強」だけでない子どもの人間形成を多面的に促す教育が求められるようになっております。こうした中、

認知的スキル・教科と
非認知的スキル・教科以外の学習の時間(特別活動、総合的な学習の時間等)
を統合した日本式の教育モデル Tokkatsu

↓

国際的に注目されています

日本式の「ひと全体」(holistic)の教育が Tokkatsu の名称で諸外国で知られるようになりつつあります。

日本の教育モデルに触発されつつ**独自のモデルを作る**諸外国の試み、日本や諸外国との**協働的な学び**も見られるようになっております。

日本の教育実践にフィードバック

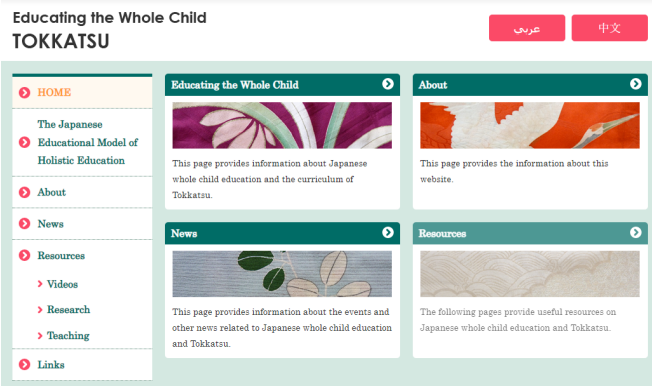
学びは一方通行ではありません。Tokkatsu モデルが受け入れられている、ないし、参考にされている国々は、日本よりも多民族の共存に対する認識が高かったり、異なる宗教や文化を持つ国々です。

従来、外国語でのコミュニケーション能力等が壁となり、日本の教師は国際的な発信がしにくかったり、国際交流をすることが難しいことが少なくありませんでした。

しかし、日本の教育の経験からうまれた教育モデルを国際発信しようとする中で、世界各国の教育、特に子どもの可能性を全面的に開花させようとする(holistic)教育から学んだり、日本の教育の最も弱い、グローバル化、国際化、多文化化に関連した問題と向き合うきっかけを得ることが期待されます。つまり、「世界も社会も自分事」への手がかりを一つ得るのです。

目標を見据えて

2013年頃から、研究所メンバーの多くは Tokkatsu モデルを支援してきました。



(写真解説)Tokkatsu の HP https://www.p.u-tokyo.ac.jp/~tsunelab/tokkatsu/

一般社団法人 グローバル多文化社会研究所
＜住所＞〒113-8668 東京都文京区向丘 1-19-1 文京学院大学 恒吉僚子研究室内
Homepage: https://www.gmsresearch.net E-mail: office[at]gmsresearch.org Tel : 03-5684-4529

しかし、この間に日本の教育経験を軸としたモデルとしては授業研究、レッスン・スタディのモデルが、特に算数・数学の認知的領域で、教師の協働的な学びを支えるモデルとして国際的に受け入れられてゆきました。

本来、教師の協働的な学びからうまれる実践を支えるのが子どもの認知だけでなく非認知的な領域にもまたがる包括的、協働的な学びかと思われます。しかし、日本の教育の中では相互補完的な教科と教科以外の学び、認知的と非認知的学習は、国際社会に出て行った時には片方の教科・認知だけが強調される傾向がありました。そして、十年の歳月がたちました。

こうした中で、2022 年、レッスン・スタディの世界学会で、会長の C.ルイス先生をはじめとする運営側のご努力によって、非認知的教育の授業研究、レッスン・スタディの必要性を提案するイベントが開催されたことは新しい展開でした。

ニュース：世界授業研究学会で日本式教育 Tokkatsu の発表

Tokkatsu モデル Lesson Study とのコラボ

日本の教育の経験、授業研究から生まれて国際モデルとなった教育モデルとして前述のように**レッスン・スタディ**があります。今では**世界授業研究学会**(World Association of Lesson Studies, WALS)は毎年開催される広がりのあるものとなっております。

2022 年はその年次大会がマレーシアのクアラルンプールで開催され、今年の9月、はじめて**Tokkatsu モデルとのコラボレーション**がされました。

認知的学び(特に算数・数学)→非認知も

レッスン・スタディが国際的な教師の協働的な学びのモデルとしてアメリカ等に採用されていった時、それは**教科指導、特に数学を対象とするもの**として発信されました。

しかし、本来は教科も教科以外の学びも、認知的な学びも非認知的な学びも共に多面的に子どもが成長する上で大事だと考えた時、レッスン・スタディもまた両者を射程に入れる必要があり、それがレッスン・スタディの学会で問題提起されました。

国際的にも非認知的スキルを身に付けることの重要性が主張されるようになっている今日、対象領域の拡大は機が熟していると言えましょう。

新しく WALS の会長になられた **C.ルイス先生**のように、日本の「ひと全体」(whole person)を対象にした人間形成教育について二十年余り前に書いていらした海外の研究者もいましたが、このテーマは長い間国際的には機が熟さずにきました。

今回はじめて、Tokkatsu とレッスン・スタディをつなぐ基調講演、シンポジウム、日本特別活動学会の先生方による「当番」「係」のワークショップ、そして、Tokkatsu ブースの設置がされました。

(写真説明)Tokkatsu ブース(インドネシア、エジプトからのシンポジウム登壇者も一緒に)

一般社団法人　グローバル多文化社会研究所
＜住所＞〒113-8668 東京都文京区向丘 1-19-1 文京学院大学　恒吉僚子研究室内
Homepage: https://www.gmsresearch.net　E-mail: office[at]gmsresearch.org　Tel : 03-5684-4529

大会のメイン会場では 700 人近く、ワークショップも部屋いっぱいに聴衆が集まりました。

（写真説明）恒吉僚子基調講演「非認知的学習のレッスン・スタディー日本式ホーリスティック教育の中でのレッスン・スタディ」（The Lesson Study of Noncognitive Learning: Lesson Study in the Japanese Model of Holistic Education Tokkatsu）

（写真説明）シンポジウム。司会、筆者、インドネシア教育大学 Tatang Suratno 先生、エジプトでの取り組みを紹介された國學院大學の杉田洋先生、Safaa Nour 先生（カイロ大学）、Mohamed Abdel Meguid 氏（JICA プロジェクト）、筑波大学の京免徹雄先生。

（写真説明）日本特別活動学会の教員による「当番」「係」のワークショップ　（恒吉僚子）

多方向的学びへ：GEM

マレーシアの国際イスラム大学（IIUM）にて、**Tokkatsu モデルに触発された「ラーマー教育（マレーシアの全人的教育）シンポジウム」**が開催されました。これはトヨタ財団の国際助成プロジェクト「ポスト・コロナ禍の共生社会に向けたインドネシア・マレーシア・日本における対話と協働を通じたグローバル市民性教育」（Global Empathic Multicultural：GEM）プロジェクトのイベントとして開催されたものです。本プロジェクトは、**コロナ禍**という同じ体験を、**異なる視点から捉える**ことで、多文化共生社会に必要な社会性・市民性と直結した活動体験を提供し、3カ国の交流を通じて、異なる視点を持つ人々と触れ合い、経済指標だけでは測れない「豊かさ」について学び合う、国際理解教育体験の場を提供することを目的としていました。GMS 研究所のメンバーが協力しています。プロジェクト代表の主任研究員の草彅佳奈子、マレーシアのマスチュラ・バジズ(Badzis)准教授、インドネシアのタタン・スラトノ(Suratno)講師が、全人的教育モデルと GEM の活動について報告を行ないました。

国際イスラム大学では大学が後押しして全人的教育が推進されており、**学長の Dzulkifli Abdul Razak 氏も「ホリスティック教育の中核としての人道的な教育」**として基調講演を行ない、「日本人はイスラム教で大切にされている礼儀正しさや他人を思いやること、自然を大事にすることなどの価値教育を実践している。今後も日本の Tokkatsu から学びイスラム教の思想を実践していきたい」との発言がありました。

また 21 日と 23 日には学校訪問を含む交流活動が行われ、パートナー校である ABIM 小学校、IIUM Educare 幼稚園、Setia Budi 小学校・中等学校を訪問しました。オンラインで交流しながら各自の実践を相互に学習してきた 2 年間の振り返りと、今後も継続して交流していきたいとの希望があり、会場は絶えず笑いが絶えない和気あいあいとした雰囲気でマレーシアでの交流が終了しました。Tokkatsu モデルに触発された独自性の高い実践が発表され、Tokkatsu モデルの新しい展開を感じさせるものとなりました。

（写真説明）IIUM のカンファレンス
（草彅佳奈子）

一般社団法人　グローバル多文化社会研究所
＜住所＞〒113-8668 東京都文京区向丘 1-19-1 文京学院大学　恒吉僚子研究室内
Homepage: https://www.gmsresearch.net　E-mail: office[at]gmsresearch.org　Tel：03-5684-4529

２）グローバル多文化社会を「見える化」「聞こえる化」して自分事化する

写真： レティシア・ザヤン（Letícia Záyan）作
向かって右から上原菜緒子（東大博士課程）、ヨシイ・ラファエラ主任研究員、恒吉藍研究員

研究所では、日本版多文化社会の「見える化」「聞こえる化」によって意識化、「自分事」化が進むとして、「見える化」プロジェクトを進めております。ヨシイ・ラファエラ主任研究員、恒吉藍研究員、上原菜穂子氏（東京大学博士課程）がエスニック・コミュニティをまわっております。教材化し、グローバル多文化社会日本の推進につなげる予定です。

お忙しい中、ご協力くださいました方々にお礼を申し上げます。（恒吉僚子）

オンライン講座開講に向けた連載スタート

私はブラジルで生まれ、2 歳のときに来日し、以来、日本の学校で教育を受けてきました。

ブラジル人集住地域の一つである滋賀県で育った私は、近所の友人、両親の職場の友人、教会、ブラジル学校、ブラジル商品のインポートショップといったさまざまな人や場所を通じて在日ブラジル人コミュニティと関わってきました。

私にとってブラジル人コミュニティは常に身近な存在でしたが、コミュニティ内の交流や活動はほとんどがポルトガル語で行われるため、日本社会（マジョリティ側）からはその内実が見えにくいというのが現状です。

そこで、**在日ブラジル人コミュニティの「見える化」「聞こえる化」**を目指して、コミュニティの一員であり、また、日本社会にも根付いている私が当事者目線でコミュニティを紹介するオンライン講座を開講することになりました。講座では、愛知県、静岡県を中心に活躍する在日ブラジル人へのインタビューを通じて当事者から見た日本社会の課題や在日ブラジル人のニーズをご紹介します。また、コミュニティ内で展開されているさまざまな支援活動やエスニックビジネスも取り上げながら、多文化社会日本における移民を対象とした支援のあり方についても検討していきます。

講座の開講に先駆け、今後はニュースレターで訪問先のフィールドを紹介して参りますので、お楽しみに！

（ヨシイ・ラファエラ）

教材開発

グローバル多文化社会を担うことになる、次の世代の子ども達を教育する教育者のための教職の本の作成も進めています。

フォトグラファー　レチシア・ザヤン（Letícia Záyan）さん
愛知県を中心に活躍する在日ブラジル人女性フォトグラファー。フォトグラファー歴 14 年、現在は、主に在日ブラジル人起業家女性に焦点を当てて活動している。被写体である女性たちが、それぞれの業界でその存在価値を認められ、また社会に受け入れられることを目指した写真を世に発表している。そうした、レチシア氏の個性にあふれた写真は、コミュニティ内で注目を集めている。
ポルトガル語　ウェブサイト：www.leticiazayan.com.br
https://www.leticiazayan.com.br/contato-1/　（英語対応可）

一般社団法人　グローバル多文化社会研究所
＜住所＞〒113-8668 東京都文京区向丘 1-19-1 文京学院大学　恒吉僚子研究室内
Homepage: https://www.gmsresearch.net　E-mail: office[at]gmsresearch.org　Tel : 03-5684-4529

一般社団法人グローバル多文化社会研究所

恒吉僚子（所長）　　髙橋史子（副所長）
（主任/研究員）
南部和彦　草薙佳奈子　ヨシイ・ラファエラ　　恒吉藍

（リサーチ・アシスタント）
Andrian Rizki Ajie　　Amanda Nur Pangestuti

https://www.gmsresearch.net/

一般社団法人　グローバル多文化社会研究所
＜住所＞〒113-8668 東京都文京区向丘 1-19-1 文京学院大学　恒吉僚子研究室内
Homepage: https://www.gmsresearch.net　E-mail: office[at]gmsresearch.org　Tel : 03-5684-4529